

1. インタビュー

デバイス管理を核に、スマートデバイス向けサービスの拡大を目指す

約4年前からモバイルやホームICTのDM（デバイスマネジメント）に関するソリューションの開発・提供に注力してきた伊藤忠テクノソリューションズ（以下、CTC）は、今年度に入りスマートデバイス向けサービスの展開を加速している。CTCのスマートデバイス向けサービス戦略について、情報通信事業企画室の丸田淳一室長にうかがった。

4年前からの取組みが功を奏す —広がるスマートデバイスの活用—

—今年度、スマートデバイス向けサービスの展開を加速されていますが、その背景と狙いからお聞かせください。

丸田 iPhoneの爆発的な普及を皮切りに、Androidの登場により、スマートフォン市場が一気にブレイクしました。その勢いはスマートフォンにとどまらず、タブレット端末や電子書籍端末、さらには情報家電製品や車載情報端末、医療・産業用機器など、あらゆる分野におけるスマートデバイスの開発競争が激化しています。スマートデバイスは、多くの企業がその可能性に注目しています。実際、その利便性から業務効率化のツールとしてだけでなく、様々なビジネスシーンでの活用を考える企業が増加してきています。

弊社がスマートデバイス向けサービス展開を加速する大きな要因として、あらゆる分野においてスマートデバイスの活用が急速に浸透しつつあることがあげられます。実は私どもは、約4年前から携帯電話やホー

ムICTのデバイス情報やユーザー情報の収集・管理等を行う“DM（デバイスマネジメント）”分野におけるソリューションの開発・提供に注力してきました。これまでにモバイルWiMAX事業者のアクティベーションシステム（OSAP）の構築力を実現する制御系システム、例えばOSGi（Open Service Gateway Initiative）標準技術に基づくサービスアグリゲーションプラットフォーム（OSAP）の構築力を有しています。こういったDMに関する取組みと並行して、Androidがスマートフォンだけでなく様々な組込系デバイスに波及することを想定し、Androidをベースとした組込みシステムの開発や、構築等に携わる企業により組織されたOESF（Open Embedded Software Foundation）に加盟し、Androidの組込みビジネスに取り組んできました。ここにきてこの2つの流れが合流し、新たなマーケットとして注目を集めるようになったといえます。当然それと並行して、iOSなどマルチデバイスへの対応や、セキュリティ対応にも取り組んできました。



伊藤忠テクノソリューションズ(株)
情報通信事業企画室
室長 丸田 淳一氏

スマートデバイス管理には、 継続したマルウェア対策が不可欠

—スマートデバイス管理に関し、8月にマカフィー社との協業を発表されました。詳細は後続の頁でご紹介しますが、なぜマカフィー社を選ばれたのですか。

丸田 DM分野で優れた技術を持つ会社は、非常に沢山あります。しかし、デバイスマネジメントの領域は、認証やアクセス管理などのセキュリティ機能に加え、マルウェア対策などウイルススキャンの仕組みが不可欠です。ウイルススキャンの仕組みは、DMシステム構築後も継続して対応することが必要で、それにはDMベンダーとの連携ではなく、セキュリティベンダーと連携することが得策であると考えました。私どもがセキュリティ分野でこれまで協業してきたセキュリティベンダーの中で、モバイル分野のセキュリティ対応にいち早く取り組んでいたのが

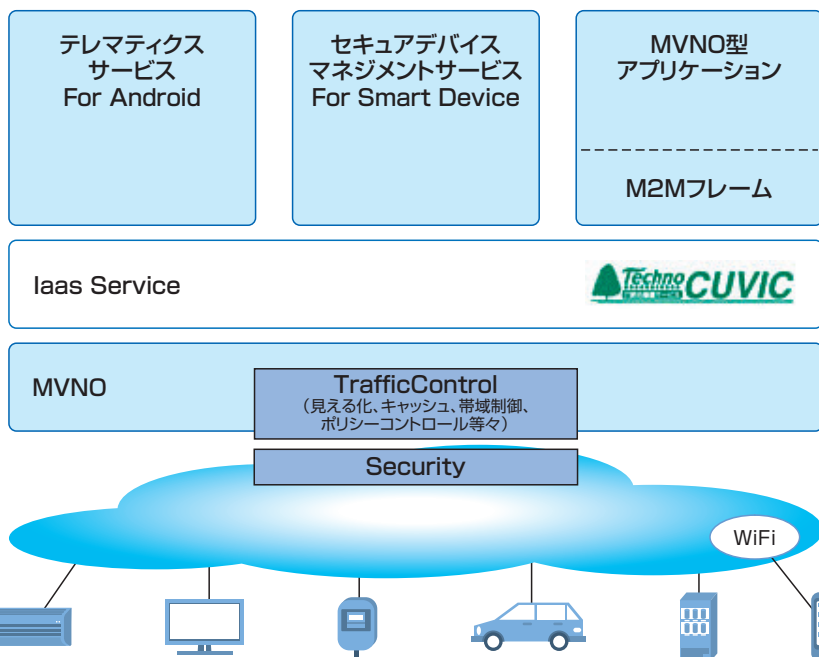


図1 CTC情報通信事業におけるスマートデバイス向けサービス

マカフィー社で、MDM（モバイル端末管理）とウイルススキャンの両方の機能を統合して提供しているのは同社だけでした。しかも同社は、GoogleやApple、Microsoft社との緊密なリレーションによりAndroidやiOS、Windows Mobileなどのバージョンアップへの対応が迅速という強みもありました。

既存のアプリケーションサービスのスマートデバイス対応を加速

——スマートデバイス管理に関する事業の方向性は……。

丸田 マルチキャリア／マルチOS対応の企業向けスマートデバイス管理システムのSIと運用サービスまでをトータルで提供します。将来的には、スマートデバイス紛失時対策（ロック＆ワイプ）やアプリケーションの管理などは、クラウドサービ

ス化も視野に入れています。また、すでにCTCが提供しているSaaSによるアプリケーションサービスとスマートデバイス管理をセットで提供することも考えています。さらに、今後はM2M（Machine to Machine）の領域までサービス範囲を拡大していくことも重要だと捉えています。

——8月には、既存の商用車両向けテレマティクスサービス「MAMS（Mobile Asset Management Service）」について、Androidに対応したクラウド型サービス「MAMS for Android」の提供を開始されました。

丸田 いずれにしましても、スマートデバイスをビジネスで活用する際には、セキュリティを含めたデバイスの管理は不可欠です。その意味では、スマートデバイス管理を核にしたサービス展開については、活用領

域の拡大、既存の様々なアプリケーションへの対応も含め、サービスの幅・奥行きとも非常に大きいと考えています。

急増するトラフィックのオフロード対策に有効なソリューションも提供

——モバイルキャリアにとって急増するトラフィックへの対応が喫緊の課題となっていますが……。

丸田 現在、モバイルキャリアにとっての最大の課題は、スマートデバイスの普及拡大に伴い急増するモバイルトラフィックに対応するためのデータのオフロード対策です。私どもは、スマートデバイス向けサービスの基盤となるモバイルネットワークのトラフィック増への対応を支援する一連のソリューションを提供しています。ネットワークのボトルネック箇所を可視化する“見える化”ソリューションから、具体的なオフロード対策としてコアネットワークにおけるキャッシュや帯域制御、ポリシーコントロールといった各種対応ソリューションの提供に加え、WiFiではインドア、アウトドアのソリューションを品揃えしています。また今後、センサネットワーク用に最適な無線機器についても、提供を検討しています。いずれにしましても、スマートデバイスの管理を核に、インフラから上位レイヤのサービスまでの全領域で事業拡大を図っていきたく考えています。

——本日は有り難うございました。

（聞き手・構成：編集長 河西義人）